

再訪 わたしたちの「聖地」永昌院

十年ひと昔とか。飯田伝馬町の路地奥に、ひっそりと立つ永昌院を訪れてから十年が過ぎている。あの時は我らが母校発祥の地の記念碑を本欄に紹介する取材だった。

十年たてば世の中も人も変わって昔になるとは古語の謂だが、永昌院は何ひとつ変わっていなかった。ここは不思議なほど静寂のスポットである。鳥の声も風の音も聞こえない。近くに人家があるのに物音も人の声も届かぬ。「ここは無住の寺で云々」と説明した本誌の発行後まもなく、「永昌院は無住ではない！」とズバリ一言の抗議文が届いた。

やがて、ある会合で墨染の僧衣の人を紹介され、貰った名刺には「永昌院住職・渡邊寛応」とあった。咄嗟に筆者は低頭し、お詫びを申し上げる。すると渡邊住職は大地の温みに似た慈顔を向けて「無住寺じゃないけど無住ですから」と笑ってお許し頂いた。

我らが母校開校の地。ここは我らの聖地である。諸兄弟氏よ、折あらば聖地巡礼のひとつを楽しまれよ。記念碑は台座ごと持ち上げる逞しき桜の根っこで傾き始めている。いずれ修復の時も来るだろう。自然の営みだから桜を憎まず、おおらかに愛の瞳をそそいで見守りたい。

牧内雪彦(中47回)



明治15年、飯田市伝馬町永昌院を仮用、郡立下伊那郡中学校として開校した地であることを示す記念碑